

# 7) 熱帯植物試験圃場における植物コレクションの活用

砂川春樹<sup>1</sup>・具志堅江梨子<sup>1</sup>・稲田幸太<sup>1</sup>・端山 武<sup>1</sup>・諸見里清香<sup>1</sup>・高山新吾<sup>1</sup>

キーワード：熱帯花木、熱帯果樹、希少植物、在来野菜

## 1. はじめに

植物研究室では、財団独自の熱帯植物試験圃場があり、国内外の熱帯・亜熱帯植物のコレクションを保有している。これらの植物は、公園内での活用、園芸植物の普及および研究に活用している。今年度の試験圃場所有植物の活用成果について、ここに報告する。

## 2. 調査研究事業への活用

南西諸島における希少植物の生息域外保全に関する研究、花卉類または観葉植物等の新品種開発、南西諸島在来野菜の収集および生理生態に関する研究、並びに都市緑化木の病虫害防除に関する研究に試験圃場保有植物を活用した（写真-1）。



写真-1 コレクションを活用した在来大豆の系統比較試験（第二熱帯試験圃場）

## 3. 展示・普及啓発への活用

当財団が管理している国営沖縄記念公園海洋博公園における熱帯・亜熱帯植物の展示および栽培体験に、以下の保有コレクションを活用した。

### 1) 熱帯ドリームセンターおよび熱帯・亜熱帯植物園におけるイベントへの活用

「ブーゲンビレア展」、「繊維植物展」および「ツバキ展」等の、期間限定の企画展、および常設展示

コーナーであるヤンバルギャラリーにて保有コレクションを活用した。これらの展示およびイベントでは、植物の来歴や植物学的な背景の解説を加え普及に供した（写真-2～6）。



写真-2 ブーゲンビレア展におけるコレクションの活用（熱帯ドリームセンター）



写真-3 熱帯・亜熱帯植物園にて開催した繊維植物の小展示（写真は、赤茎芋麻（左）、青茎芋麻（右））

<sup>1</sup> 植物研究室



写真-4 ツバキ展における在来ツバキ、ヒメサザンカの展示



写真-5 在来希少種イリオモテスミレの展示（熱帯ドリームセンター）



写真-6 芋掘り体験に供するため、在来紅芋の「備瀬」および「ちゅら恋紅」の植えつけ（都市緑化植物園）

## 2) おきなわ郷土村での栽培体験への活用

琉球王国時代からの伝統的な家庭菜園「あたいぐわ」がおきなわ郷土村の民家に再現されている。ここで、地元小学校の栽培体験を実施、植えつけから収穫までを行った（写真-7）。圃場保有コレクションの一つである本部町在来ネギの「もとぶ香ネギ」を用い、児童は単に栽培するだけでなく、計測も行うことで、畑の生育環境の違いによって生育が異なることや分けつ現象を学習した。



写真-7 在来野菜コレクションである「もとぶ香ネギ」を用いた栽培体験（おきなわ郷土村「あたいぐわ」）

## 3) 緑化植物の催事等における配布苗としての活用

秋の都市緑化月間 都市公園等愛護活動の一環で、当財団が管理している首里城公園内の清掃美化作業に参加された方へ、緑化苗としてハイビスカス等 300 鉢を保有コレクションから増殖して配布した（写真-8）。



写真-8. 緑化催事にて配布したハイビスカス

## 4. 外部評価委員会コメント

今後はこれらの植物についてカテゴリー別展示と解説等を充実させ「おもしろ植物園」や「熱帯ドリームセンター」他を際立たせて“有用園”、“観光目的園”その他に分けて発展させることを望む。また、バックヤードでは“植物園学教育の場”にすることも検討されたい。保有・管理している有用植物のうち、特に熱帯果実コレクションは優秀なのでこれらに関してセミナーや植物画クラスも実現可能だと思う。催事の企画も重要ながら集客のための広報も重要である。（小山顧問：Hawaii Sakura Foundation 理事長；高知県立牧野植物園 名誉園長・顧問；B. P. Bishop Museum Associate）

試験圃場は施設面積が広く、コレクション数も多いにもかかわらず、そこで栽培される植物をよく管理され、それらを熱帯ドリームセンター等で

展示したり、民間会社に利活用してもらったりと有効に利用されていると思います。今後とも、このような活動を継続していただきたい。（上田顧問：ぎふワールド・ローズガーデン 理事；広島県福山市役所 世界バラ会議推進 プロジェクトマネージャー）